

放課後等デイサービス事業所における評価結果（公表）

公表：令和6年 3月 1日 事業所名 時のひかり

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	3	2	・分割して広く使えるようにしている。 ・利用児の状況や特性に応じてレイアウト、活動場所を適宜検討しながら実施している。	・車いす使用の子や、ハイハイで移動する子があり、適切とは言えない。
	②	職員の配置数は適切である	2	3	・利用人数に対してドライバーや他事業所のスタッフにも協力してもらっている。 ・人員基準以上の配置を行っている。	・人数によっては足りなく感じることもある。 ・欠席などで職員が減ると配置が合わないことがある。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	5	0	・車いす利用が増えてきており、やや狭めだが配慮されている。 ・配慮がなされているが通路に関して狭い箇所がある。	
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	5	0	・療育週案で実施、また必要時適宜ミーティングで対応している。 ・毎朝の朝礼時ミーティングを実施している。	
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	0	・実施できている。 ・令和4年度実施し、結果を振り返り事業所で検討。今年度改善に取り組んでいる。	
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	0	・ホームページで公開している。	
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	2	・まだ実施していない。来年度実施予定。	・今後実施予定。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4	1	・毎月の研修は忘れないようにスタッフ間で声掛けを行って実施した。 ・月二回の内部研修を実施している。 ・内部研修とそれぞれ分担して外部研修へも参加している。	・一人一人が年に数回は計画的に確保できるとよい。
適切な支援の提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5	0	・定期的アセスメントに加え、月1回の経過をまとめ、共有している。 ・利用児、保護者へアセスメントを実施し、ニーズの選択表に分析結果を表し作成している。	
	⑩	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	0	・アセスメントシート2種類とニーズの選択シートを使用している。	
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っている	5	0	・交代で立案し、共有して実施している。 ・案をそれぞれローテーションして検討し、ミーティングの中で発表、検討を行い実施している。	
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	0	毎週担当を変えて療育のプログラムを考えて取り組んでいる。 ・季節の行事を取り入れている。 ・月、週毎のプログラムを立案して実施。終了後は必ず振り返りを実施している。	
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4	1	・大まかには決めて取り組んでいる。 ・利用の季節、時期、時間に合わせて内容を設定して実施している。	・人数が多くなり、イメージが持てず過ぎる場合もあるため課題が多くある。引き続き内容などブラッシュアップしていく。
⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5	0	・全員で取り組めるプログラム、個別性の高いプログラムを実施している。 ・アセスメントの結果、個別支援計画案の中で個別、集団とそれぞれにプログラムを専門職、職員同士協働して実施できるように作成している。		

関係機関や保護者との連携	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	0	<ul style="list-style-type: none"> ・朝礼にて分担を確認し、ボード等で視覚化している。 ・朝礼時、利用児を確認してあらかじめ予定している支援内容の確認と流れ、担当等を再確認している。 	
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	1	<ul style="list-style-type: none"> ・終了後や朝礼時に必要事項を確認、振り返りを実施。不在の職員にも共有できるようにノートを活用している。 	・夕方は行動がばらばらになるため、必ずしもその日に振り返りをし、共有できているとは言えない。
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	0	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフト（カイボケ）を活用して日々の記録を徹底している。入力後はプリントアウトを行いファイルにまとめていつでも確認できるようにしている。 	
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5	0	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週週案の振り返りを行い、見直しを行っている。 ・モニタリング時期がすぐわかるよう表にまとめて確認できるようにしている。またそれぞれの専門職の見解を記載するようにしている。 	
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っている	5	0	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドラインの理解と実現を踏まえ支援を行っている。入職者には研修の中でガイドライン読み込みを行っている。 	
	⑳	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	0	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的には児発管が出席。必要に応じて児発管に加えて看護師、保育士、理学療法士などが出席する。 	
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	5	0	<ul style="list-style-type: none"> ・学校へお迎え時、担当者が学校職員、職員と情報共有を行っている。また学校からの連絡について保護者より書面で承諾を得て連絡帳や書類を確認している。 	
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	5	0	<ul style="list-style-type: none"> ・主治医より通所に必要な診療情報提供書（嘱託医へ）、指示書をいただき支援体制を整えている。 ・嘱託医へも定期的に報告している。 	
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4	1	<ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援から放課後等デイサービスへの利用児に担当者会議や書面でのやり取り、相談支援専門員を通してそれぞれ実施している。 	
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	3	2		・これまでそういった事例はないが、必要時行っていく。
	㉕	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	0	<ul style="list-style-type: none"> ・南部アーチルさん、北部アーチルさんとのやり取りや連携、主催の研修会に参加をしている。 	
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	4		・児童館（長町）へは挨拶済み。今後交流の機会を検討していく。
	㉗	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	0	5		・参加していない。今後参加を行っていく。
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	0	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎時にお預かり時の状況を口頭でもお伝えしている。 ・送迎時や連絡帳、必要時管理者からの連絡を行い、報告、記録の整理、共通理解を図っていく。 	
	㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	3	2		・ペアレントトレーニングの形式、内容ともに十分には行えていない。だが障害特性の理解や理解状況の調整については随時お伝えしている。

保護者への説明責任等	⑩	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	0	・契約時はもちろん、「何度でも説明させていただく」旨を伝えている。	
	⑪	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4	1	・話をしっかりと傾聴して、一つの方法のみならず様々な方法や選択肢をお伝えしている。	・保護者対応について学ぶ研修等も取り入れていく。
	⑫	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4	1	・年2回保護者会を実施している。出席しやすいよう、イベントと同日で実施するなどの工夫をしている。	・父母の会へ参加していきたい。
	⑬	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5	0	・苦情について受付や対応、周知のマニュアルは整備されている。だが今のところ苦情等の実施はなし。	
	⑭	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	0	・毎月新聞を発行している。定期的にホームページも更新している。 ・時のひかり新聞を毎月発行している。その中で活動概要や行事予定、必要な連絡事を記載して発信している。	
	⑮	個人情報に十分注意している	5	0	・ファイルにまとめ鍵付きの書庫に保管している。	
	⑯	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	0	・視覚障害のある利用児には一つ一つ話しかけ、「伝わる」方法で伝達している。	
非常時等の対応	⑰	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	2	・時のかけはしと共同でレクリエーション等開催している。 ・コロナ禍前までは地域交流を盛んに行っていたが現在は様子を見ている状況。今後は感染対策を十分に講じ、実施していく。	
	⑱	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	5	0	・マニュアルを策定し説明で周知を行っている。	
	⑲	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	0	・年二回訓練を実施している。	
	⑳	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4	1	・年に二回研修を実施している。	
	㉑	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5	0	・身体拘束の例外3原則を踏まえて実施する際の規定を定めている。現在は実施をした実績はなし。	
	㉒	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	0	・医師の指示書、保護者への確認を踏まえて対応している。	
	㉓	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	0	・ヒヤリハットの事例が出た場合、報告書をもとに検討し、多角的に対応を話し合いファイルにまとめている。	